

登 録 速 報

農 薬 名：ベストパートナー1キロ粒剤（登録番号：第 22806 号）

適用拡大登録月日：平成27年9月9日

適用拡大登録内容：

- 作物名「直播水稻」の使用時期「休出芽揃～ルゝ3葉期 但し、収穫 60 日前まで」を「稲出芽揃期～ルゝ3葉期 但し、収穫 45 日前まで」に変更する。
- 作物名「直播水稻」に使用時期「は種時」および「は種直後」を追加する。
- 適用土壌、適用地帯の区分を廃止する。

【変更後】

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ピリミスルファンを含む農薬の総使用回数
移植水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ハラオモダカ ヒルムシロ セリ オモダカ クダマ シズイ コウキヤガラ イゾノササカゲサ アオミドロ・藻類による表層 はく離	移植後3日～ ルゝ3葉期 但し、 移植後30日まで	1kg/10a	1回	湛水散布	2回以内
		稲出芽揃期～ ルゝ3葉期 但し、 収穫45日前まで				
直播水稻	水田一年生雑草 及び マツバイ ホタルイ ウリカワ ミスガヤツリ ハラオモダカ ヒルムシロ セリ	は種時	0.5kg/10a (少量散布)		は種同時散布 機で施用	
		は種直後			落水散布又は ごく浅く 湛水して散布	

注意事項の変更：

【追加】

- 散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かに行なうこと。

【削除】

- 河川、湖沼、地下水等を汚染しないよう、落水、かけ流しはしないこと。

【変更後】

- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの3葉期までに、時期を失しないように散布すること。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布すること。ホタルイ、ミズガヤツリ、ウリカワは3葉期まで、ヘラオモダカ、エゾノサヤヌカグサは2葉期まで、オモダカ、クログワイ、コウキヤガラは発生始期まで、シズイは草丈3cmまで、ヒルムシロは発生期まで、セリは再生始期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離は発生前が本剤の散布適期である。
- オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイは発生期間が長く、遅い発生のものまでは十分な効果を示さないので、必要に応じて有効な前処理剤または後処理剤と組み合わせて使用すること。
- 苗の植付けが均一となるように、代かきおよび植付作業はていねいにおこなうこと。未熟有機物を施用した場合は、特にていねいにおこなうこと。
- 湛水散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態（水深3～5cm）を保つこと。
- 散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと。また、入水は静かに行なうこと。
- 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用をさけること。
 - 砂質土壌の水田および漏水田（減水深が2cm/日以上）。
 - 軟弱苗を移植した水田。
 - 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田。
- 直播水稻に使用する場合、以下の点に注意すること。
 - 稲の出芽揃期以降に使用する場合には、出芽前の稲に対して薬害を生じるおそれがあるため、稲の出芽が揃わない場合は、稲の不完全葉期以降に散布すること。
 - 稲の根が露出した条件では一時的に生育抑制が生じる場合があるが、回復し苗立ちに対する影響は認められていない。
 - 稲の出芽揃期以降に使用する場合には、除草効果が低下するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布すること。
- 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用をさけること。
- 散布後の数日間に著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- 本剤を散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないこと。

- 本剤はその殺草特性から、いぐさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これらの作物の生育期に隣接田で使用する場合は十分に注意すること。
- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にして使用すること。特に初めて使用する場合や異常気象の場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

以 上